

来院理由として多くみられるペインクリニック領域の症状で、『自律神経失調症』についてお話しします。

『自律神経失調症』とは、精神的なストレスや気温変化等の外的刺激が長時間続くと、全ての器官を調整している自律神経がそれらを排除しようと頑張るあまり、体を守ろうと防御反応を起こして、自律神経がバランスを崩してしまい、全身の機能に支障をきたす病気です。自分の意思で制御できない無意識の働き(主に内臓)を掌る自律神経は、喉にある星状神経節に情報が一旦集められ、そこで情報を整理し脳の視床下部に送られますが、情報過多な状態だと整理されず混乱した状態で送られ自律神経失調症が生じます。

自律神経失調症の原因と症状は一人一人異なり多彩であるのが特徴です。原因には、精神的・肉体的ストレスによるもの、日常生活のリズムの乱れによるもの、ホルモンの変調によるもの等様々な原因があり、それらが複雑に絡み合うこともあります。症状も身体各器官に様々な不調が現れ、肉体面・精神面、又は両方に出ることもあり程度も様々です。特に夏は暑さによる睡眠不足や冷房病と呼ばれる室内外の激しい温度差により、冷えやだるさ等の自律神経失調症状が生じ易いです。夏バテとあきらめず受診しましょう。

《自律神経失調症の治療法》

① 薬物療法

自律神経調整薬、抗不安剤、ビタミン剤、抗うつ剤、睡眠誘導薬、ホルモン剤、漢方薬(芍薬・黄連・抑肝散)など。

② 星状神経節ブロック療法(最も適した治療法)

頸部にある星状神経節(自律神経が集まっている神経のツボ)に局所麻酔薬を注入する治療法です。自律神経のツボに注射することにより、自律神経の調子が正常に戻り様々な症状が改善されます。自律神経失調症に最も適した治療法です。

③ 理学療法

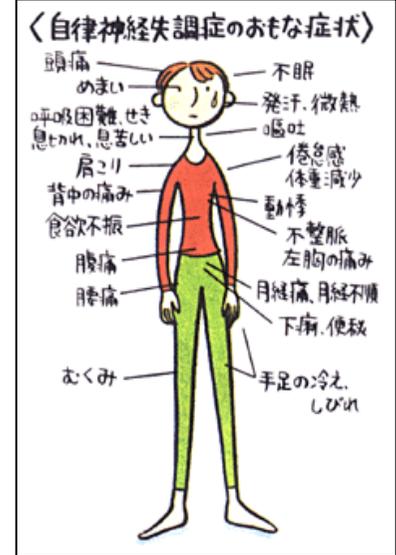
星状神経節にレーザー照射やキセノン光による温熱療法、筋肉を収縮させる高周波治療器など。

④ 徒手療法

副交感神経を刺激する無血刺絡(シラク)、生体の流れを正常にする遠絡療法等の東洋医学、関節矯正のAKA療法も効果的。

⑤ サプリメント療法

ストレスへの抵抗力を高めるビタミンC、神経の働きを正常にするビタミンB・A・E、不眠やイライラ解消にカルシウムなど。



ご希望・お問い合わせの方は、医師・スタッフまでお申し付け下さい。

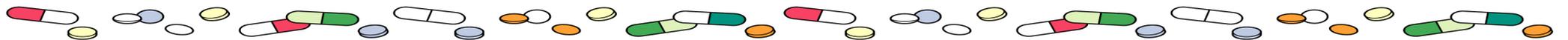
～かわたペインクリニック～

痛みの診療所 ペインクリニック

なぜ痛いかわからない、原因はわかっているが痛みで困っている。そんな方は、痛みを治療する専門の診療所ペインクリニックへご相談ください。

かわたペインクリニック
ペインクリニック(痛みの治療)・内科・リハビリテーション科
〒631-0036 奈良市学園北1-9-1 パラディII5F

TEL.0742-53-1155 FAX.0742-53-1001
<http://www.kawata-cl.jp>





ペインクリニック領域の症状で、『冷え症』についてお話しします。

冷え症は、単なる体質だから仕方がないとあきらめている方も多いのではないのでしょうか。しかし、現代人の8割が冷え症と言われ、切実な問題となっています。



冷え症は、医学的に言えば“抹消血管の血行障害”、平たく言えば“血行不良”で、手や足など体の末端部分で血行が悪くなっている状態を言います。

血管の収縮と拡張を受け持っている自律神経の調整が上手くできなくなって、手足の先の血行が悪くなり、冷え症になります。

人間の体は、寒いと感じると毛細血管を収縮させて体温が外へ逃げないようにし、その後、今度は血管を拡張させて血液を送り込み、体表の温度が下がり過ぎないように調節する仕組みになっています。

ところが、その調節がうまくいかず、血管が収縮したままになり、冷たくなってしまふのが冷え症です。また、ホルモンのバランスの乱れや低血圧、鉄欠乏性貧血、外的ストレス(エアコン・締め付けのきつい服・ダイエットなど)などによっても、冷え症になり易くなります。

冷え症の症状は、血管収縮により、慢性的に細胞の栄養不足や酸素低下状態となり、その結果、頭痛・肩こり、疲れ易い・体力がない、肌荒れ・血色不良、腹痛・便秘・下痢、生理不順、足のむくみなどが生じます。体温が一度下がると免疫力が30%以上も低下すると言われ、冷え症は万病の元と言っても過言ではありません。あらゆる病気につながる冷え症を単なる体質とあきらめず、受診するよう心がけ、ますます厳しくなる寒さに備え、早めの冷え症対策を始めましょう。

《冷え性の治療法》

① 薬物療法

漢方薬、自律神経調整薬、向精神薬が効果的。

② 星状神経節ブロック療法

自律神経の調子を正常に戻すことにより、様々な症状を改善する星状神経節ブロック療法は、頸部にある星状神経節(自律神経が集まっている神経のツボ)に局所麻酔薬を注入する冷え症に最適な治療法です。

③ 理学療法

星状神経節にレーザー照射やキセノン光による温熱療法、筋肉を収縮させる高周波治療器、ハドマーによる下肢マッサージなど。

④ 徒手療法

関節の歪みによる血液循環悪化や冷え解消に関節矯正のAKA療法や生体の流れを正常にする遠絡療法の東洋医学も効果的。

⑤ サプリメント療法

糖質を燃やしエネルギーと体熱を効果的に生むビタミンB1、血行の働きをよくし体内ホルモン分泌を調整するビタミンE、鉄分吸収を促進し毛細血管の機能を保持するビタミンC、体温を下げないよう体中に酸素を運ぶ役割の鉄分、等。

ご希望・お問い合わせの方は、医師・スタッフまでお申し付け下さい。 ～かわたペインクリニック～

なぜ痛いのかわからない、原因はわかっているが痛みで困っている。
そんな方は、痛みを治療する専門の診療所ペインクリニックへご相談ください。

かわたペインクリニック
ペインクリニック(痛みの治療)・内科・リハビリテーション科
〒631-0036 奈良市学園北1-9-1 / パラディII5F
TEL.0742-53-1155 FAX.0742-53-1001
<http://www.kawata-cl.jp>

